

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：34312

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12923

研究課題名(和文)新しい多言語学習環境の構築 英語による中国語学習、中国語による英語学習

研究課題名(英文)Building a New Multilingual Learning Environment:Chinese Learning in English, English Learning in Chinese

研究代表者

York Weatherford (WEATHERFORD, York)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・講師

研究者番号：00633398

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：1.WebソフトZoomを利用し、中国語を学習している他国の大学生、またアメリカサンフランシスコ大学に在学している中国人留学生(米中文化交流学生会孤山会、Sino-Heritage Association)とインターネット上での会話を行って、多言語学習環境を構築した。2.上記のサンフランシスコ大学に在学している中国人留学生が、京都ノートルダム女子大学を訪問して、在學生と中国語、英語或いは日本語でお互い質問したり、議論したりするアクティビティを2回し、アンケート調査も行った。アンケートの集計を分析し、外国語教育における多言語学習環境構築の可能性に関して考察を論文にまとめ、発表する予定である。

研究成果の概要(英文)：1. Using the Web software Zoom, university students from other countries who are studying Chinese and Chinese students who are studying at the University of San Francisco (American-Chinese Cultural Exchange Student Association, Sino-Heritage Association) had conversations on the Internet, thereby constructing a multilingual learning environment. 2. The Chinese students studying at the University of San Francisco mentioned above twice visited Kyoto Notre Dame University and conducted question and discussion activities in Chinese, English or Japanese with the students at the University. We will analyze questionnaire results and summarize the discussion on the possibility of constructing a multilingual learning environment in foreign language education in a future paper and presentation.

研究分野：多言語学習

キーワード：アジア型外国語学習法 英語による中国語学習 多言語学習環境

1. 研究開始当初の背景

近年、日本政府の「グローバル人材育成推進事業」のもとで、日本の大学からさまざまな国際舞台で活躍できる「グローバル人材育成」プログラムが多く考案された。英語教育の強化、英語を母語とする欧米各国への留学推進、などである。しかし、これらのプログラムの多くは欧米型の英語教育を中心とし、英語以外の外国語をあまり重視しないといった偏りが見られ、果たして真の「グローバル人材育成」に有効的かどうかは疑問である。現に、日本の大学における外国語教育にいくつかの問題が露呈している。日本人学生の英語力はアジアの各国と比べると低い状態である。2011年9月NHK放送による日米中大学生討論番組の中で、中国の学生が全員英語で参加したのに対して、日本の学生が全員日本語で参加したことはまだ記憶に新しい。また、日本人学生は「内向き」傾向にあり、海外への留学にはあまり積極的ではない。経済協力開発機構(OECD)の報告書「図表でみる教育2013」によると、「大学など高等教育機関に在籍する日本人のうち国外で学ぶ学生は1.0%(11年実績)にとどまり、加盟34カ国中、米国に次ぐ低い水準である。日本人の「留学離れ」が鮮明になった(日本経済新聞2013年6月25日)ことが示されている。このような問題を解決するためには、大学生に外国語、或いは外国留学に興味を持たせるだけではなく、英語以外の外国語への学習強化も必要だと思われる。

以上の背景から、研究代表者はアジア型の外国語学習の研究の必要性を感じた。日本は、アジアの国々と地理的にも心理的にも近く、文化的にも共有するところが多い。特に香港、シンガポールは英語を公用語にしているため、英語と中国語のバイリンガルな生活を送る大学生が多い。これらの国と地域の大学での多言語学習環境を考察した上、言語学習アプリで、よりシンプルな英語と中国語によるデジタル学習動画を編集し、学生に配信する。この実践を通して、日本の大学生に多言語学習環境を提供し、斬新な外国語学習方法を提供することを考えた。

2. 研究の目的

本研究はアジア諸大学の多言語学習環境を考察し、日本における英語による中国語学習、中国語による英語学習の可能性を検討することを目的とするものである。多言語的な教育に取り組んでいる香港、シンガポールなどの教育法を考察した上、日本における新しい多言語学習環境を構築することを目指した。その具体的な方法として、言語学習アプリで、よりシンプルな英語と中国語によるデジタル学習動画を編集し、学生に配信することによって、日本人学生に英語と中国語を同時に学習できる斬新な学習方法をもたらすこととした。

3. 研究の方法

本研究は、主に2つの研究方法で行った。(1)アジア諸大学の多言語学習環境を考察し、日本における英語による中国語学習、中国語による英語学習の可能性を検討した。(2)学内の英語、中国語を学習する学生に対して、多言語学習環境づくりのイベントと試験的な授業を行い、その後アンケート調査を行った。

4. 研究成果

(1)香港城市大学において、英語が母語でない学生を対象にする英語による中国語授業の見学と教員のインタビューを行った。見学したクラスは中国語初級クラス(練習と宿題を中心)であった。全クラス40名程度の学生がいるが、すべてヨーロッパ、日本、韓国、その他アジア、ヨーロッパ非英語圏の学生である。つまり英語と中国語は両方とも非母語である。3ヶ月の交換留學生が多いため、皆モチベーションが高い。週に5コマ、或いは3時間の授業を受けるのが一般的である。また、皆会話に興味があるのは大きな特徴である。見学に関する考察は次の3点にまとめることができた。

1)最初に本日の授業のスケジュールと目標を言う。目標を可視化することによって、学生に学習到達点にたどりつける安心感と自信を与える。

2)パワーポイントで練習問題を掲示する。いきなり当てるのではなく、担当を指定し、学生に少し議論と準備時間を与える。アクティブラーニング的な教授法を導入している。

3)教員が使用している英語は決して難しい単語ではない。さらに、重要なポイントはすべてパワーポイントで表示している。例えば、英語が得意でない学生でも視覚と聴覚の両方から教員の教えを理解することができる。授業終了後に、担当教員と意見交換の形で簡単なインタビューを行った。「日本と違って、香港という特殊な土地で、学生たちが中国語学習のモチベーションが高いのではないかと研究者からの質問に対して、「確かにその一面があるが、英語が母語でない学生にとって、英語で中国語を学習することで、英語の学習にも有益である」と担当教員が答えた。この回答から、今回の考察のキーワードと結論を見つけた。つまり、多言語環境とモチベーションも大事だが、もっと大事なものは言語学習関連性と効果を学生に目に見える形で感じさせることである。

(2)ヨーロッパの国際シンポジウム("Inaugural Symposium of the European Association of Chinese Teaching" ELTE Konfuciusz Intezet, Budapest)で日本での中国語教育実践法を発表した。主に、スマートフォンを利用した中国語学習法(主に日本語による中国語学習法)の実践を紹介した。現在、Yobiquitous Text、Quizletなどのア

プリを授業中或いは授業後の予習復習に使っている。

(3) 学生の多言語学習環境への需要と意識を確認するため、京都ノートルダム女子大学で「英語による中国語学習」パイロットスタディを実施した。

(4) 中国語教育学会と中国近世語学会へ参加し、他大学の多言語学習環境構築についての論文発表を聞き、多言語学習環境について考察した。

(5) WebソフトZoomを利用し、中国語を学習している他国の大学生、またアメリカサンフランシスコ大学に在学している中国人留学生(米中文化交流学生会孤山会、Sino-Heritage Association)とインターネット上での会話を行った。この実践を通して、学生の中国語、また他の外国語学習へのモチベーションを上げ、中国語と英語を同時に学習できる多言語学習環境を学生に提示した。

(6) 上記のサンフランシスコ大学に在学している中国人留学生が京都ノートルダム女子大学を訪問して、在学生と中国語、英語或いは日本語でお互い質問したり、議論したりするアクティビティを授業の一環として2回開催した。そのアクティビティを終了後に、多言語学習環境構築に関するアンケート調査も行った。アンケートの集計を分析し、外国語教育における多言語学習環境構築の可能性に関して考察を論文にまとめ、発表する予定である。

(7) 英語-中国語会話小冊子(Travel Conversation Starters)の出版。本小冊子は京都を訪れる外国人をもてなす実用的な十場面を想定し、シンプルな単語と文で作ったイラストつきの会話集である。外国語の学習環境づくりの第一歩として、本小冊子は英語と中国語のみ使用することにした。

(8) 上記の英語-中国語会話小冊子(Travel Conversation Starters)の電子版もiBookで公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

朱鳳, 伊伏啓子, 漢語教学的幾個新賞試(中国語教育におけるいくつかの新しい試み)"Inaugural Symposium of the European Association of Chinese Teaching" ELTE Konfuciusz Intezet, 2017

〔図書〕(計1件)

York Weatherford, 朱鳳, 小山哲春, 英語-中国語会話小冊子(Travel Conversation Starters) 冊子版、電子版, 2018, 23

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

「英語による中国語学習」パイロットスタディ第一回学習会の報告(2015年7月18日)
<http://notredameningen.kyo2.jp/c18284.html>

英語による中国語教授法見学所感 2017年2月9日

<http://notredameningen.kyo2.jp/search.php?csrf=4d1a1a8b4743b8c62a63207b7ae50ef12586b65b&search>

ハンガリーのローラン大学での学会発表
2017年4月4日

<http://notredameningen.kyo2.jp/e504165.html>

Travel Conversation Starters
<http://www.notredame.ac.jp/~yorkwf/TravelConversationStarters/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

York Weatherford (WEATHERFORD, York)
京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・講師

研究者番号: 00633398

(2) 研究分担者

朱鳳 (ZHU, Feng)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・
教授
研究者番号： 00388068

小山 哲春 (KOYAMA, Tetsuharu)
京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・
教授
研究者番号： 60367977